

# 全柔連 医科学委員会から要請

## グラندスラム柔道大会で救護支援

### 東京オリパラを視野に



公益社団法人日本柔道整復師会（日整）を代表して工藤鉄男会長が全日本柔道連盟（全柔連）の医科学委員会委員として活動しています。役割分担は医師との連携救護。全柔連との繋がりは強く、今年6月に全柔連の新会長にご就任された山下泰裕氏は日整の顧問です。

#### 工藤会長は医科学委員

こうした協力関係の下、

12月1日から3日まで開催された「平成29年度第2回医科学委員会会議及びグランドスラム医科学シンポジウム、柔道グランドスラム東京2017」には、医科学委員会からの要請により、救護補助委員やトレーナーとして

# 日整

# トピック

発行 公益社団法人  
日本柔道整復師会  
発行人 工藤鉄男  
編集人 富永敬二

#### 費養療復整柔 会員専門委員 査討

**実務経験、原則3年以上**  
**日整は一步も譲らず**

第12回柔道整復療養費検討専門委員会が11月20日、東京の「TKP赤坂駅カンファレンスセンター」で開催されました。議論の中心になった実務経験の年数について、日整側は一步も譲らず『原則3年以上』に決定していただくことを強く主張しました。

「東京オリピック」や国内の主要柔道大会、国際大会などに柔道整復師が救護班の一員として参画できるように、積極的に取り組んでいます。

活動するために8名の会員が参加しました。写真。日整は、2020年の「東京オリピック」や国内の主要柔道大会、国際大会などに柔道整復師が救護班の一員として参画できるように、積極的に取り組んでいます。

日整からの参加者は次のとおり（敬称略）  
原沢研祐（群馬）・金井英樹（埼玉）・市毛雅之（東京）・篠弘樹（東京）・瀧澤一裕（東京）・田澤裕二（神奈川県）・田澤俊二（神奈川県）・浪尾敬一（香川）（渉外部）

#### 実務経験、原則3年以上 日整は一步も譲らず

新たに『限界事例の者』への対応についてもできる限りの議論を重ねました。これは平成30年3月の国家試験で柔道整復師の資格取得後、すぐに施術管理者となる計画をしている者であって、資格取得後の5月末日までに施術管理者となる届け出をした者が対象者です。

（保険部）

#### グランドスラム柔道大会とは？

かつて日本で開催されていた伝統ある二つの国際大会、男子の「嘉納治五郎杯 国際柔道大会」、女子の「福岡国際女子柔道選手権大会」。2007年にこの2大会が合わさる形で男女共催かつ日本唯一の国際大会「嘉納治五郎杯 東京国際柔道大会 ワールドグランプリ」が生まれました。この大会誕生から2年を経た2009年、これまで各国が独自に開催していた国際大会を国際柔道連盟（IJF）がワールドツアーとして整備。名称もIJFのツアーグレードに合わせ「グラントスラム東京」と変更されました。ワールドツアーの一戦となったことにより、それまで以上に世界の強豪が多数参戦する大会へと生まれ変わり、オリンピック代表選考に大きな影響を与える大会となり現在に至っています。

参考資料 「テレビ東京」 ネット解説より

#### 超高齢社会に対応

#### プロジェクトチームを発足 地域包括ケア参入に向けて

日整は、介護保険制度に対して、今まで保険部介護対策課として活動してきました。しかし、介護保険制度改正により政府の方針である地域包括ケアシステムへの参入を視野に入れ、新たに「地域包括ケア検討プロジェクトチーム」を発足しました。これは工藤会長の遠大な計画です。柔道整復師の誕生から100周年を迎えるに当たり、地域で親しまれている柔道整復師の職能をさらに活かし、日本の超高齢社会に貢献していくための事業です。

チームは、日整の保険部、学術教育部、総務部、政策部で構成されており、機能訓練指導員認定柔道整復師の講習会拡充、柔道整復師の行う機能訓練指導員としての活動を、国や市区町村へアピールしていくことを目指しています。

（保険部）